花の芸術

ART OF FLOWER

2022

花の芸術

ART OF FLOWER

2022

作品集

立花時勢粧３３３年

桑原専慶流いけばな展

2022 年 3 月 2 日㈬→7 日㈪

大丸ミュージアム〈京都〉［大丸京都店 6 階］

1 期　3 月 2 日㈬・3 日㈭
2 期　4 日㈮・5 日㈯
3 期　6 日㈰・7 日㈪

入場料（税込）1,000 円
大学生以下無料
※入場料は京都市に寄付しました

いけばなって何だろう

いけばなは
花と協力することで
生き生きとした美をつくりだす芸術です

自然の一部を切り取り　器に入れることで
花たちが新たな物語を語り始めます

花と良い関係を築いて心を通わせ
それぞれの個性を存分に発揮させる

それにはいつ頃どんな環境に育つのかを知り
花を生かす技術が必要です

花は大切に扱い
心をこめていけると
必ずそれに良い表情で応えてくれます

肝心なのは花を敬う気持ちです

すべての命を尊び
花と一緒に
綺麗なもの何か人をほっとさせるものをつくりあげる

それがいけばなの究極の姿だと思います

この度　立花時勢粧３３３年を記念して
「花の芸術」いけばな展を開催しました

私たちのいけばなから
心地よい風が皆様に届きますように

桑原専慶流家元　桑原仙溪

花の芸術　出品者

数字は掲載ページ

通期

桑原　仙溪	家元	4
桑原　櫻子	副家元	6
桑原　健一郎	次期家元	8

1期

桑原　慶華		10
横田　慶重	華老	14
米山　慶嘉	家元補佐	19
北川　慶法	家元補佐	21
山本　慶智	家元補佐	
二井　慶博	家元補佐	23
関和　慶弘	家元補佐	25
杉浦　慶弥	家元補佐	26
小池　花風	会頭	
大塚　輝峰	入門	
矢野　慶良	総目代	29
藤田　慶綾	総目代	33
井尻　慶聡	総華監	
北村　慶美	総目代	34
安達　慶令	総目代	36
相内　慶啓	目代	40
釜井　慶経	華監	
中山　慶元	目代	44
小橋　慶智	総華監	
和田　慶年	師範	
大野　慶友	総華監	47
佐藤　慶友	総華監	48
安藤　慶津	華監	59
植野　慶栄	華監	60
永田　慶悦	華監	65
千田　慶真	師範	71
谷口　慶喜	師範	72
浅井　慶知	師範	73
比嘉　慶志	師範	
小倉　慶麗	師範	76
石黒　慶知	師範	78
外川　慶美	師範	82
岡田　慶延	師範	85
國府谷　慶知	師範	86
酒井　慶康	師範	87
空華　慶千	師範	89
織田　慶純	師範	90
田邊　慶花	師範	91
小島　溪月	初伝	97

2期

桑原　慶寅		11
武田　慶園	華老	13
三木　慶善	家元補佐	
川瀬　慶裕	家元補佐	16
長尾　慶淑	家元補佐	18
朝倉　慶佐	家元補佐	20
田村　慶澄	総目代	
後藤　慶節	総目代	27
藤本　慶隆	総目代	
森本　慶明	総目代	28
今村　慶悟	総目代	35
今村　慶明	師範	
滝本　慶由	総目代	37
赤木　慶希	総目代	38
白崎　慶穂	目代	39
小泉　慶哉	目代	42
河野　慶美	目代	43
奥井　慶和	総華監	45
松本　慶季	総華監	46
鹿野　慶正	総華監	49
佐藤　慶由	総華監	51
佐藤　慶美	華監	
秋山　慶淑	華監	52
手塚　慶美	師範	
内田　慶雅	華監	56
井上　慶則	華監	58
髙楠　慶幸	華監	61
山本　慶紀	師範	
宮島　慶啓	師範	
大丹生　慶愛	華監	62
上野　慶里	華監	66
高玉　碧晶	準教授	
竹中　慶恒	華監	68
今井　慶紀	師範	70
葉柳　慶智	師範	75
久保　慶彩	師範	79
石野　慶裕	師範	83
上妻　慶雅	師範	
クリス　星樹	初伝	98
山田　光楓	入門	99
早川　久仁子		102
平井　さゆり		
鳴木　今日子		

3期

桑原　菜月		12
和田　慶千	華老	15
小菅　慶節	家元補佐	17
阪本　慶純	家元補佐	22
林　慶妙	家元補佐	24
新井　慶珠	総目代	30
中村　慶典	総目代	31
足立　慶英	総目代	32
中西　慶由	目代	41
井内　慶君	総華監	50
大江　慶昌	華監	53
大江　星照	奥伝	
大江　翠晶	初伝	
古賀　慶和	華監	54
高橋　慶嘉	華監	55
稗田　慶智	華監	
森　慶汐	師範	
服部　慶晴	華監	57
伊藤　慶和	師範	
中居　慶花	師範	
東中川　慶智	華監	63
中岡　慶起	師範	
掛水　慶恵	師範	
鈴木　慶由	華監	64
村松　慶真	華監	67
須崎　慶詠	師範	
下村　慶哲	師範	69
中野　慶里	師範	74
金子　慶和	師範	77
権　慶英	師範	80
木戸　慶由	師範	81
石原　慶真	師範	84
上野　慶理	師範	88
小田部　慶綾	師範	92
竹内　慶由	師範	93
奥田　彩波	準教授	94
岡田　清峰	会頭	95
大内　竹翠	中伝	96
水島　輝月	入門	100
竹林　青波	入門	101

桜一色立花　十五世家元　桑原仙溪

花材／本桜（ほんざくら）　卜伴椿（ぼくはんつばき）

花器／白釉彩泥花器　市川廣三

桜の四方正面　副家元　桑原櫻子

花材／陽光桜（ようこうざくら）　河津桜（かわづざくら）　雪柳　板屋名月（いたやめいげつ）　レリア

花器／陶花器　清水六兵衛

松一色砂の物　次期家元　桑原健一郎

花材／松　松苔木　晒木（しゃれぼく）

花器／銅砂鉢

桜一色立花　十五世家元　桑原仙溪

花材／本桜（ほんざくら）　卜伴椿（ぼくはんつばき）

花器／白釉彩泥花器　市川廣三

桜の四方正面　副家元　桑原櫻子

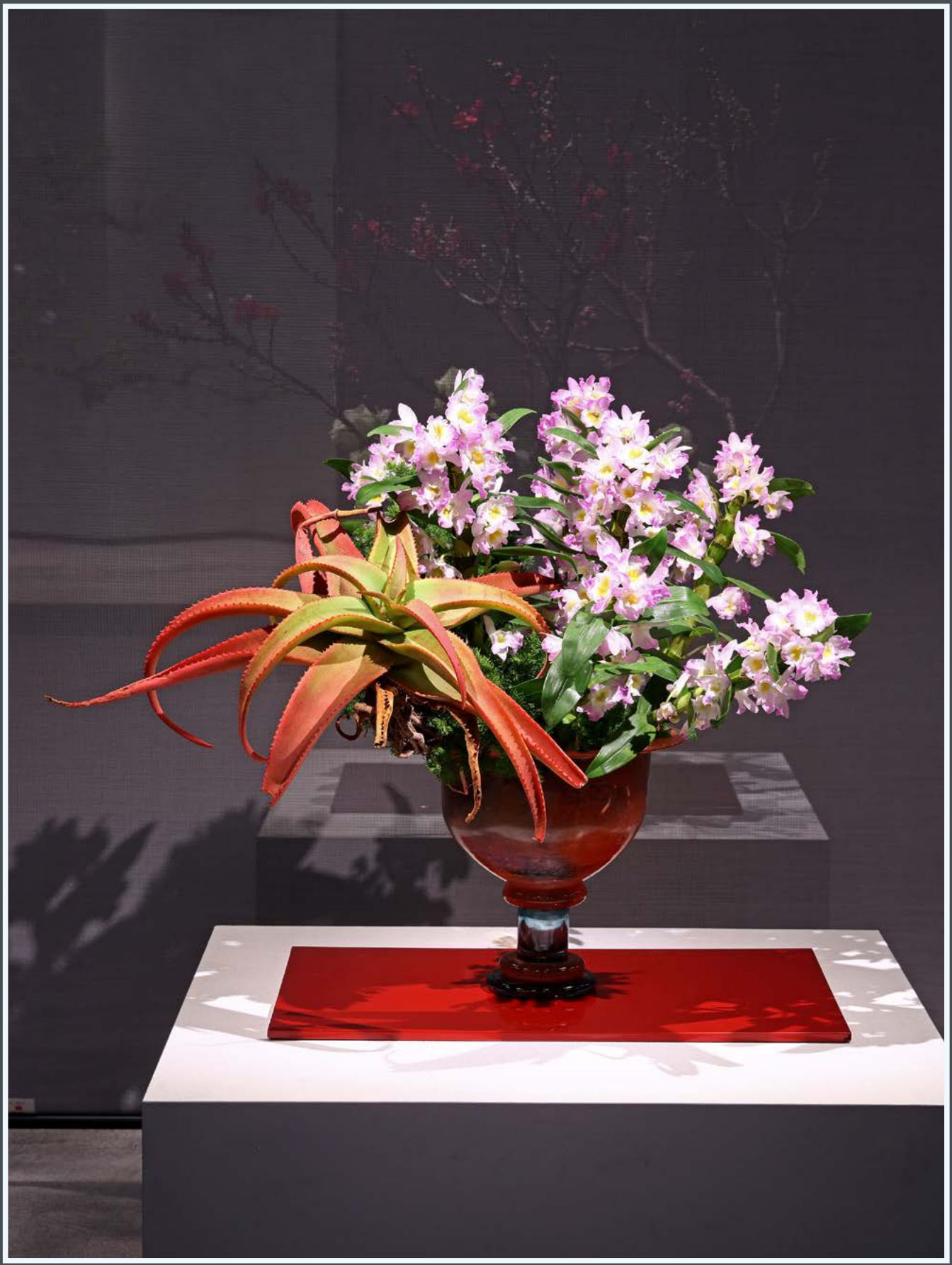
花材／陽光桜（ようこうざくら）　河津桜（かわづざくら）　雪柳　板屋名月（いたやめいげつ）　レリア

花器／陶花器　清水六兵衛

松一色砂の物　次期家元　桑原健一郎

花材／松　松苔木　晒木（しゃれぼく）

花器／銅砂鉢



桑原慶華

花材／アロエ　デンドロビウム　　花器／ガラスコンポート　シェル・エングマン（スウェーデン）

※作品写真は会期に関係なく 役職順に掲載しています

桑原慶寅

花材／梅苔木（こけぼく）　エピデンドラム　ミリオクラダス

花器／陶花器　竹内眞三郎

桑原菜月

花材／連翹（れんぎょう）　雪柳（ゆきやなぎ）　ラナンキュラス

花器／鉄足ガラス花器（アメリカ）

武田慶園　（華老）　三木慶善　（家元補佐）　生花

花材／木瓜（ぼけ）　花器／陶花器　近藤豊

横田慶重　（華老）

花材／唐桃（からもも）　薔薇（ばら）　　花器／陶水盤　宮川香雲

和田慶千　（華老）　立花

花材／シンピジウム　カトレア　オンシジウム　アンスリウム・ジャングルブッシュ
パフィオペディルム　ネオレゲリア　麋角羊歯枯葉（びかくしだ）　花器／陶花器　森野泰明

川瀬慶裕　（家元補佐）

花材／蛇の目松　洋菊数種　　花器／染付鉢　中島豊人　中島恭子

小菅慶節　（家元補佐）

花材／板屋名月（いたやめいげつ）　石楠花（しゃくなげ）　　花器／茣蓙目（ござめ）小判型花籃（はなかご）

長尾慶淑　（家元補佐）

花材／雪柳（ゆきやなぎ）　胡蝶蘭（こちょうらん）　アルストロメリア　　花器／彩泥花器　宮下善爾

米山慶嘉（家元補佐）

花材／枝垂桃（しだれもも）　岩根絞椿（いわねしぼり）

花器／陶花器　近藤豊

朝倉慶佐　（家元補佐）　田村慶澄　（総目代）　立花

花材／白梅　松　椿　こて檜葉（ひば）　柊南天（ひいらぎなんてん）　水仙　　花器／銅立花瓶

北川慶法（家元補佐）　山本慶智（家元補佐）

花材／河津桜（かわづざくら）　牡丹（ぼたん）　ミリオクラダス

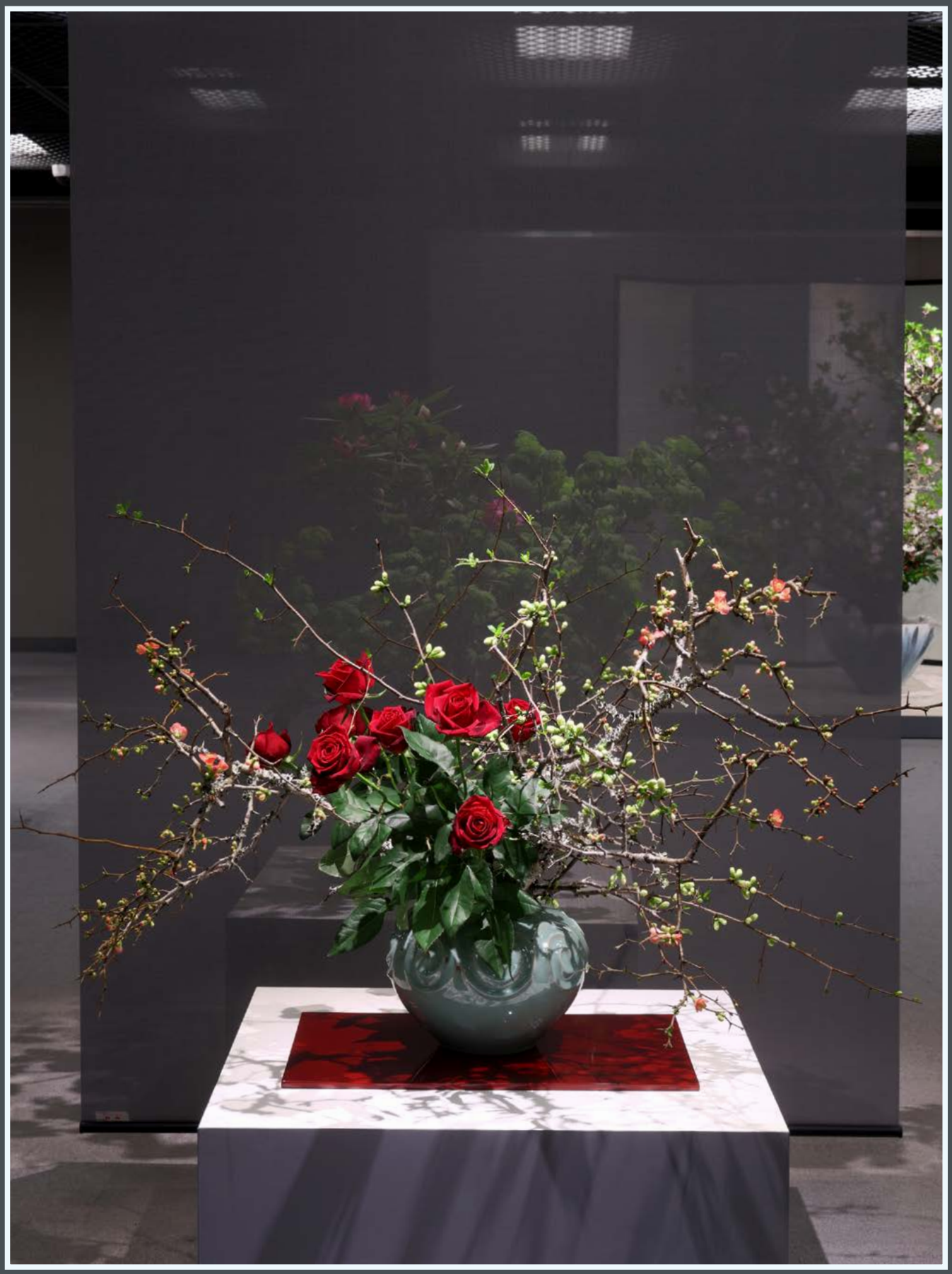
花器／陶花器　竹内眞三郎

阪本慶純　（家元補佐）　生花

花材／白梅　月光椿（がっこうつばき）　花器／松樹天目大鉢　木村盛康

二井慶博　（家元補佐）　立花

花材／　松　躑躅（つつじ）　杜若（かきつばた）　伊吹（いぶき）　柾木（まさき）　柘植（つげ）　枇杷（びわ）　　花器／銅立花瓶



林慶妙　（家元補佐）

花材／木瓜（ぼけ）２種　薔薇（ばら）　　花器／青磁壺　米沢蘇峰

関和慶弘　（家元補佐）

花材／ピンポン菊　オンシジウム　　花器／陶花器　竹内眞三郎

杉浦慶弥（家元補佐）　小池花風（会頭）　大塚輝峰（入門）

花材／木蓮（もくれん）　エピデンドラム　菜の花　　花器／練込花器　竹内眞三郎

後藤慶節　（総目代）　藤本慶隆　（総目代）

花材／ストレリチア　ガーベラ３種　ミリオクラダス　　花器／陶水盤　竹内眞三郎

森本慶明　（総目代）

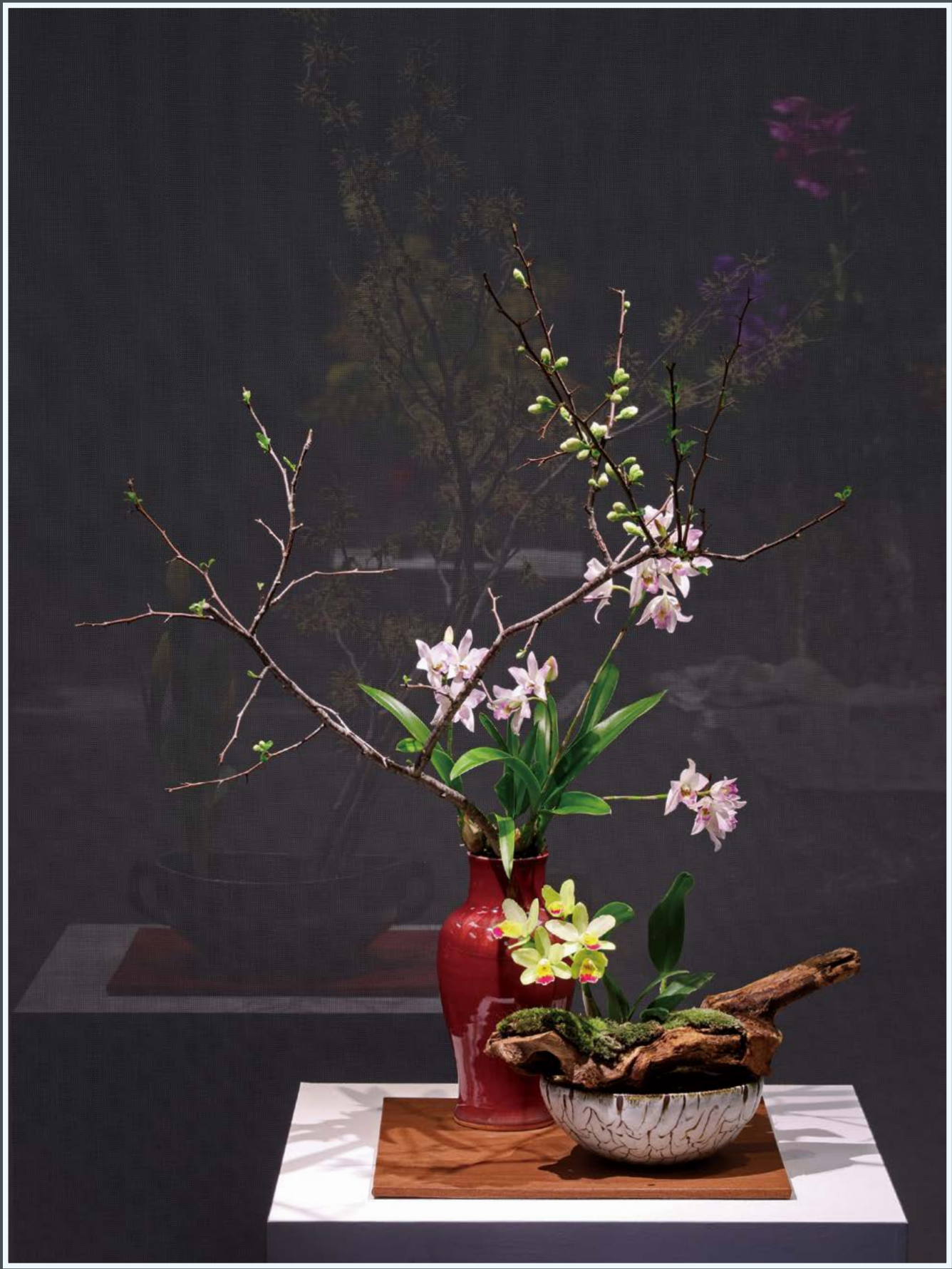
花材／猫柳　黒芽柳　チューリップ２種　　花器／緑釉陶鉢（フランス）

矢野慶良　（総目代）

花材／藤　薔薇（ばら）　　花器／陶花器　矢野款一

新井慶珠　（総目代）

花材／デルフィニウム　胡蝶蘭（こちょうらん）　薔薇（ばら）　　花器／陶深鉢　宇野仁松



中村慶典　（総目代）

花材／木瓜（ぼけ）　カトレア２種　山苔　晒木（しゃれぼく）　　花器／紅釉瓶：竹島覚二　陶水盤：木村盛伸

足立慶英　（総目代）　生花

花材／山茱萸（さんしゅゆ）　椿　　花器／陶花瓶　宮下善爾

藤田慶綾　（総目代）　井尻慶聡　（総華監）

花材／オクロレウカ　アンスリウム　オンシジウム　　花器／紺釉陶鉢（フランス）

北村慶美　（総目代）

花材／ブルビネラ　薇（ぜんまい）　ゼラニウム　　花器／真鍮花器

今村慶悟　（総目代）　今村慶明　（師範）　生花

花材／河津桜（かわづざくら）　花器／三つ足陶火鉢

安達慶令　（総目代）　生花

花材／花満作（はなまんさく）　椿　　花器／銅薄端

滝本慶由　（総目代）

花材／アマリリス　カーネーション　モンステラ　　花器／ガラス花器

赤木慶希　（総目代）

花材／小手毬（こでまり）　グロリオサ　　花器／彩泥花器　宮下善爾

白崎慶穂　（目代）　生花

花材／珊瑚水木（さんごみずき）　椿　　花器／陶花器　小川欣二

相内慶啓　（目代）　釜井慶経　（華監）

花材／フィロデンドロン・アスタツム　エピデンドラム　ミリオクラダス
花器／ボヘミアンカットガラス・コンポート

中西慶由　（目代）

花材／チランドシア　オーキッド・フローラス　オンシジウム　ミリオクラダス
花器／猫の花器　カドリ・カエルマ

小泉慶哉　（目代）

花材／藤　クリスマスローズ２種　　花器／鉄釉花器：川合誓徳　　陶花器：近藤髙弘

河野慶美　（目代）　生花

花材／小手毬（こでまり）　チューリップ　　花器／アンティーク・チューリン（フランス）

中山慶元（目代）　小橋慶智（総華監）　和田慶年（師範）

花材／ラナンキュラス・シャルロット　スプレンゲリー

花器／チェコ・ボヘミアンガラス花器（モーゼル）　Jiri Suhajek 作

奥井慶和　（総華監）

花材／薔薇（ばら）数種　　花器／陶コンポート（モロッコ）

松本慶季　（総華監）

花材／スカビオサ　シンピジウム　ベゴニア　　花器／銅花器

大野慶友（総華監）

花材／珊瑚水木（さんごみずき）　モンステラ　シンピジウム

花器／陶花器

佐藤慶友　（総華監）

花材／カーネーション２種　テマリソウ　　花器／二口陶花器

鹿野慶正　（総華監）

花材／黄花グロリオサ　カトレア　　花器／ガラス花器　モニカ・バックストロム（スウェーデン）

井内慶君　（総華監）

花材／オンシジウム　ゼフィラエレガンス　原種グラジオラス　レースフラワー
花器／ベネチアンレースグラス

佐藤慶由　（総華監）　　佐藤慶美　（華監）

花材／アマリリス　ミモザ　ポピー　　花器／斜縞紋ガラス花瓶（フランス）

秋山慶淑　（華監）　　手塚慶美　（師範）

花材／白木蓮（はくもくれん）　胡蝶蘭（こちょうらん）　バンダ　ミリオクラダス　　花器／陶花器　竹内眞三郎

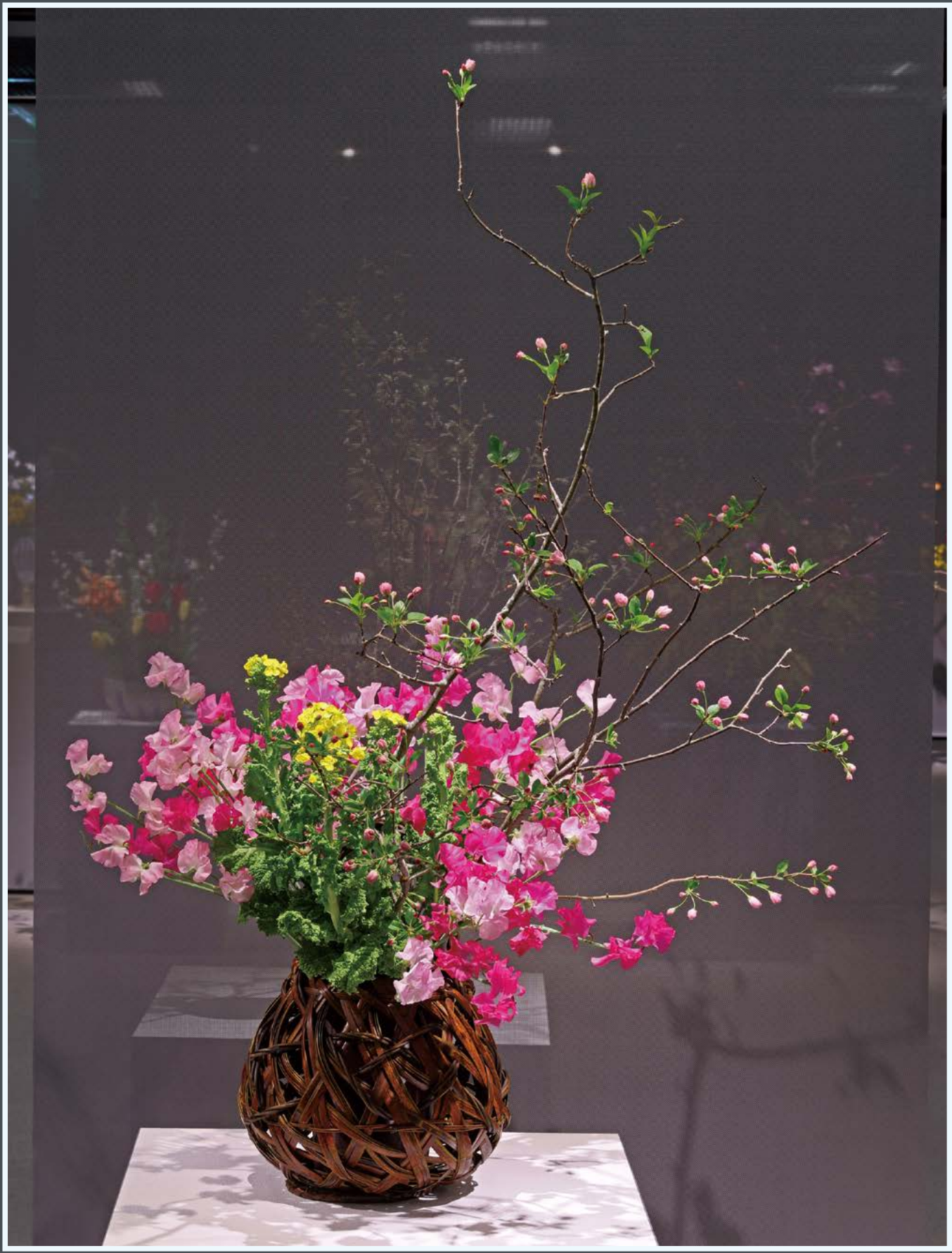
大江慶昌　（華監）　大江星照　（奥伝）　大江翠晶　（初伝）

花材／ミモザ　オドントグロッサム　カトレア　スプレンゲリー

花器／ガラス花瓶　：アンティーク・クリシー　ガラス小花器２瓶：エミール・ガレ

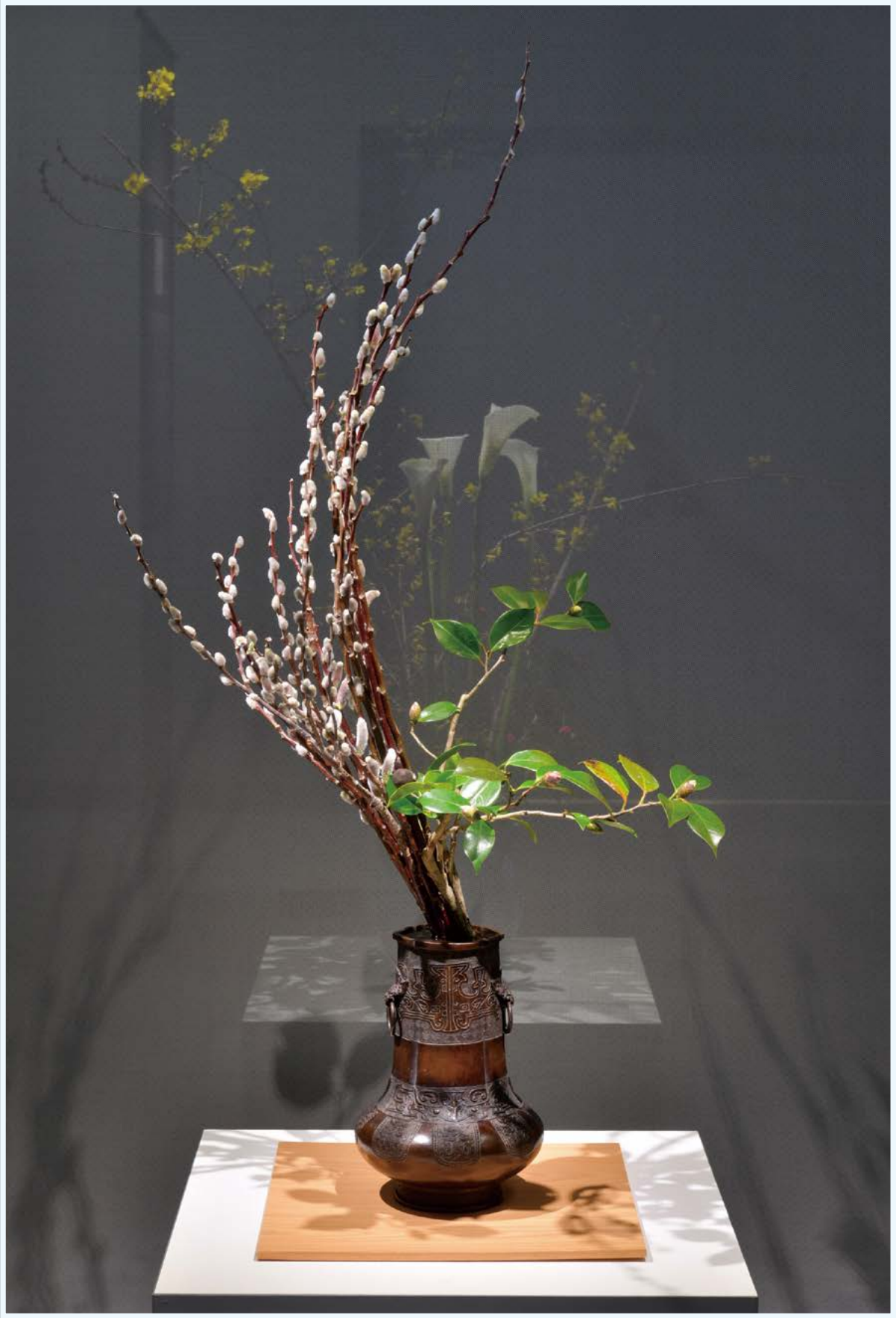
古賀慶和　（華監）

花材／烏木蓮（からすもくれん）　牡丹（ぼたん）　　花器／陶花瓶　加藤敏雄



高橋慶嘉　（華監）　稗田慶智　（華監）　森慶汐　（師範）

花材／海棠（かいどう）　スイートピー３種　菜の花　　花器／手付煤竹籠（すすだけかご）



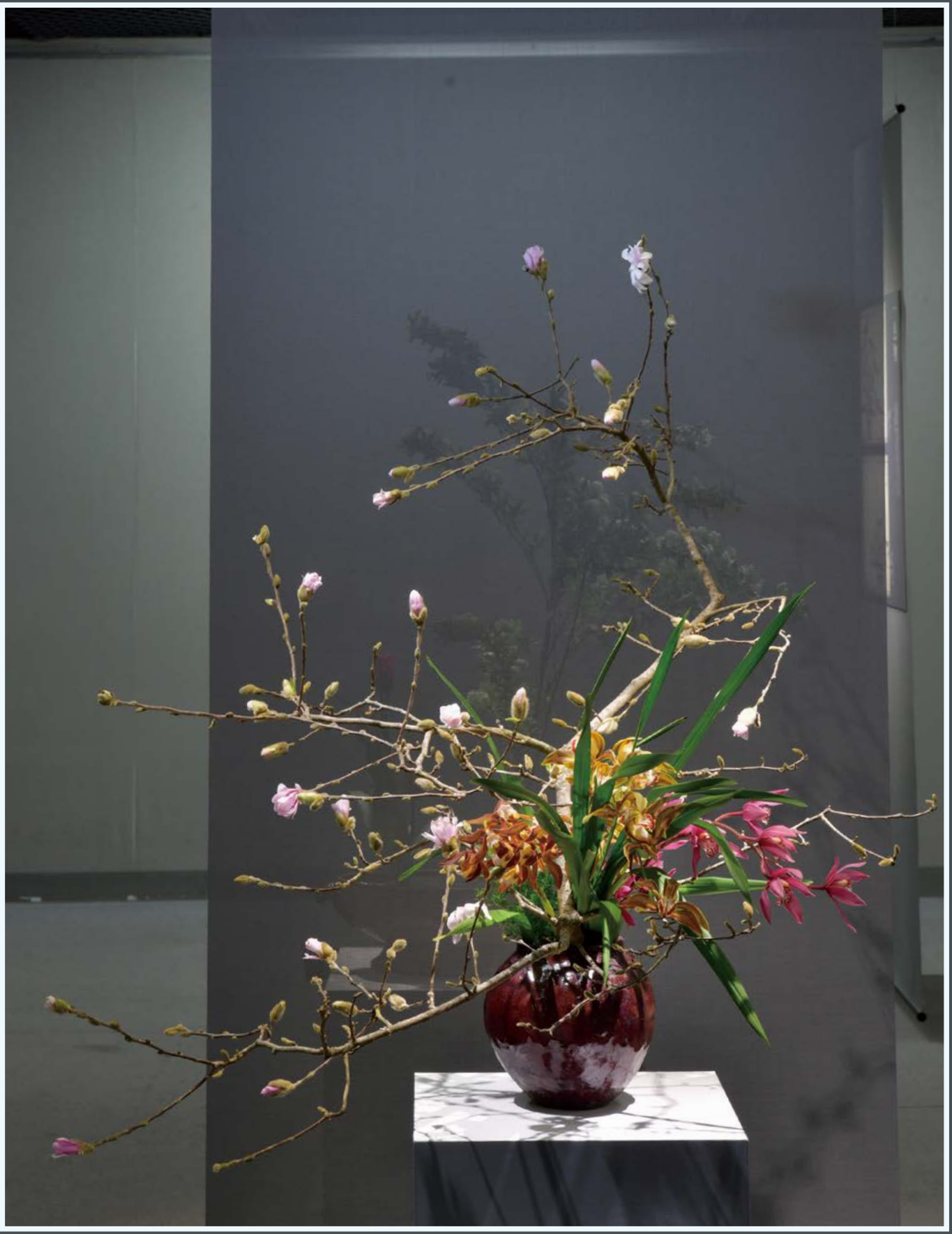
内田慶雅　（華監）　生花

花材／赤芽柳　椿　　花器／遊鐶耳銅花器

服部慶晴（華監）　伊藤慶和（師範）　中居慶花（師範）

花材／バンダ3種　ダリア　スパイダーコーン　ミリオクラダス

花器／陶花器　竹内眞三郎

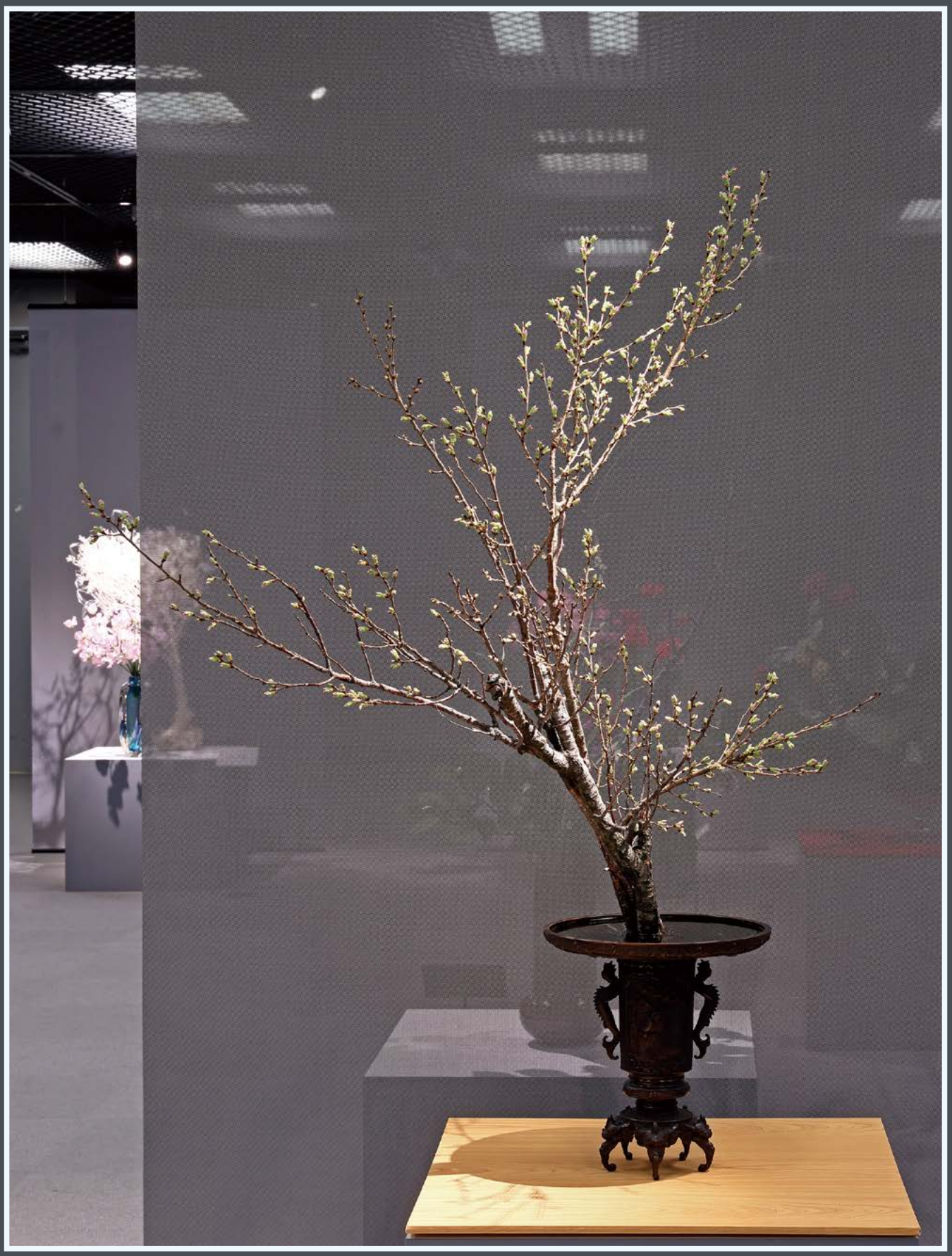


井上慶則　（華監）

花材／辛夷（こぶし）　シンピジウム３種　　花器／陶花器　宇野仁松

安藤慶津　（華監）

花材／アマリリス　ミルクブッシュ　ミリオクラダス　　花器／陶水盤　市川博一



植野慶栄　（華監）　生花

花材／彼岸桜　花器／銅薄端（うすばた）

髙楠慶幸（華監）　山本慶紀（師範）　宮島慶啓（師範）

花材／連翹（れんぎょう）　カラー　椿　　花器／陶花器　市川廣三

大丹生慶愛　（華監）

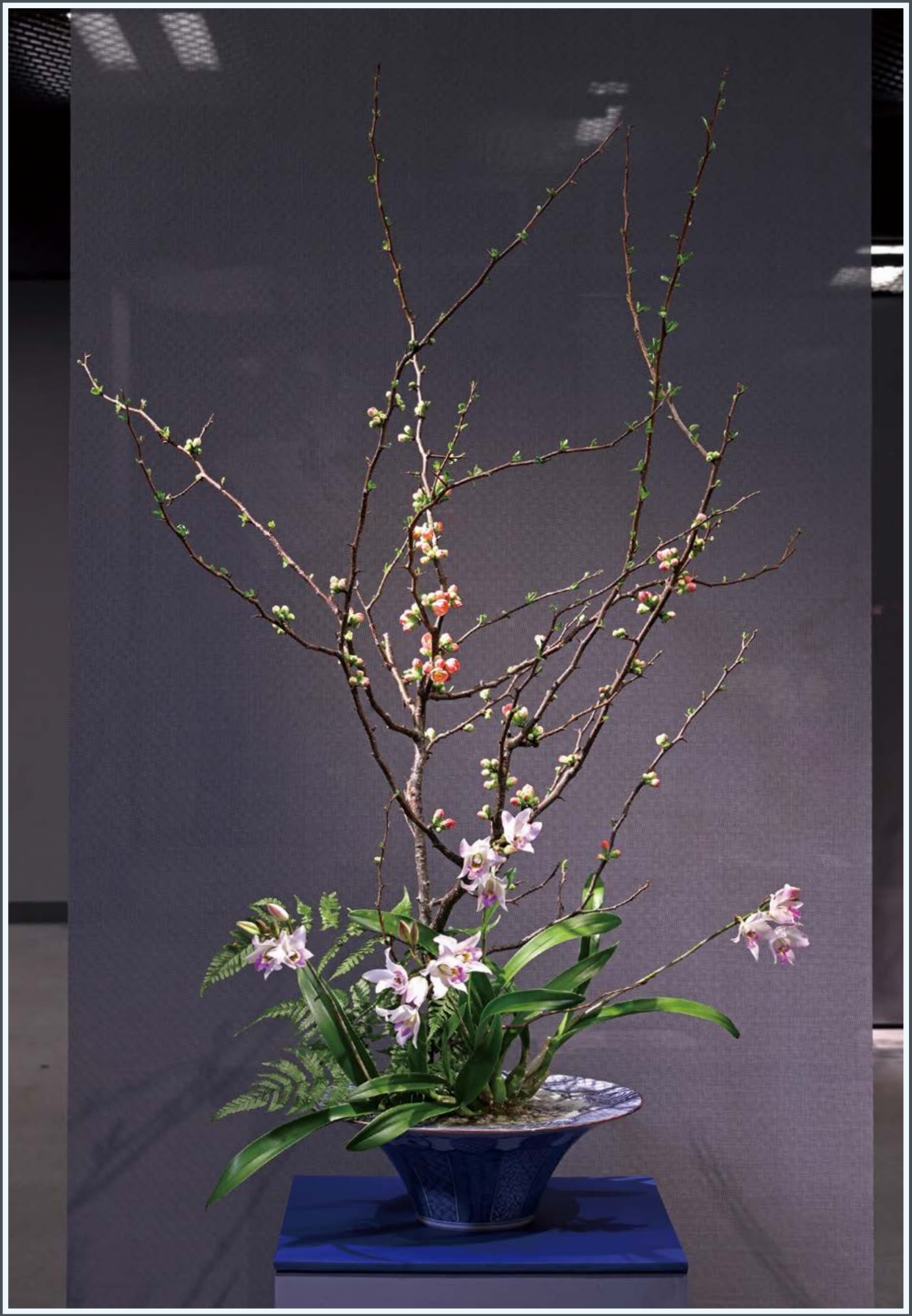
花材／木瓜（ぼけ）　胡蝶蘭（こちょうらん）　菜の花　　花器／陶花瓶　藤平正文

東中川慶智　（華監）　中岡慶起　（師範）　掛水慶恵　（師範）

花材／稟角羊歯（びかくしだ）　アンスリウム　オンシジウム　　花器／陶花器　伯耆正一

鈴木慶由　（華監）　生花

花材／花満作（はなまんさく）　チューリップ　　花器／耳付陶鉢



永田慶悦　（華監）

花材／木瓜（ぼけ）　蘭（プリンセス・キコ）　赤羊歯（あかしだ）　　花器／祥瑞（しょんずい）広口花器

上野慶里　（華監）　高玉碧晶　（準教授）

花材／紅梅　デンドロビウム　ミリオクラダス

花器／陶花器　森野泰明

村松慶真　（華監）　須崎慶詠　（師範）

花材／青文字（あおもじ）　チューリップ３種　　花器／ガラス鉢　John Burchetta（アメリカ）

竹中慶恒　（華監）

花材／白桃　薔薇（ばら）２種　　花器／陶花器

下村慶哲　（師範）　生花

花材／彼岸桜（ひがんざくら）　花器／天女文銅花瓶

今井慶紀　（師範）　生花

花材／山茱萸（さんしゅゆ）　花器／銅薄端（うすばた）

千田慶真（師範）

花材／紅梅　椿

花器／陶花器　宇野仁松

谷口慶喜　（師範）　生花

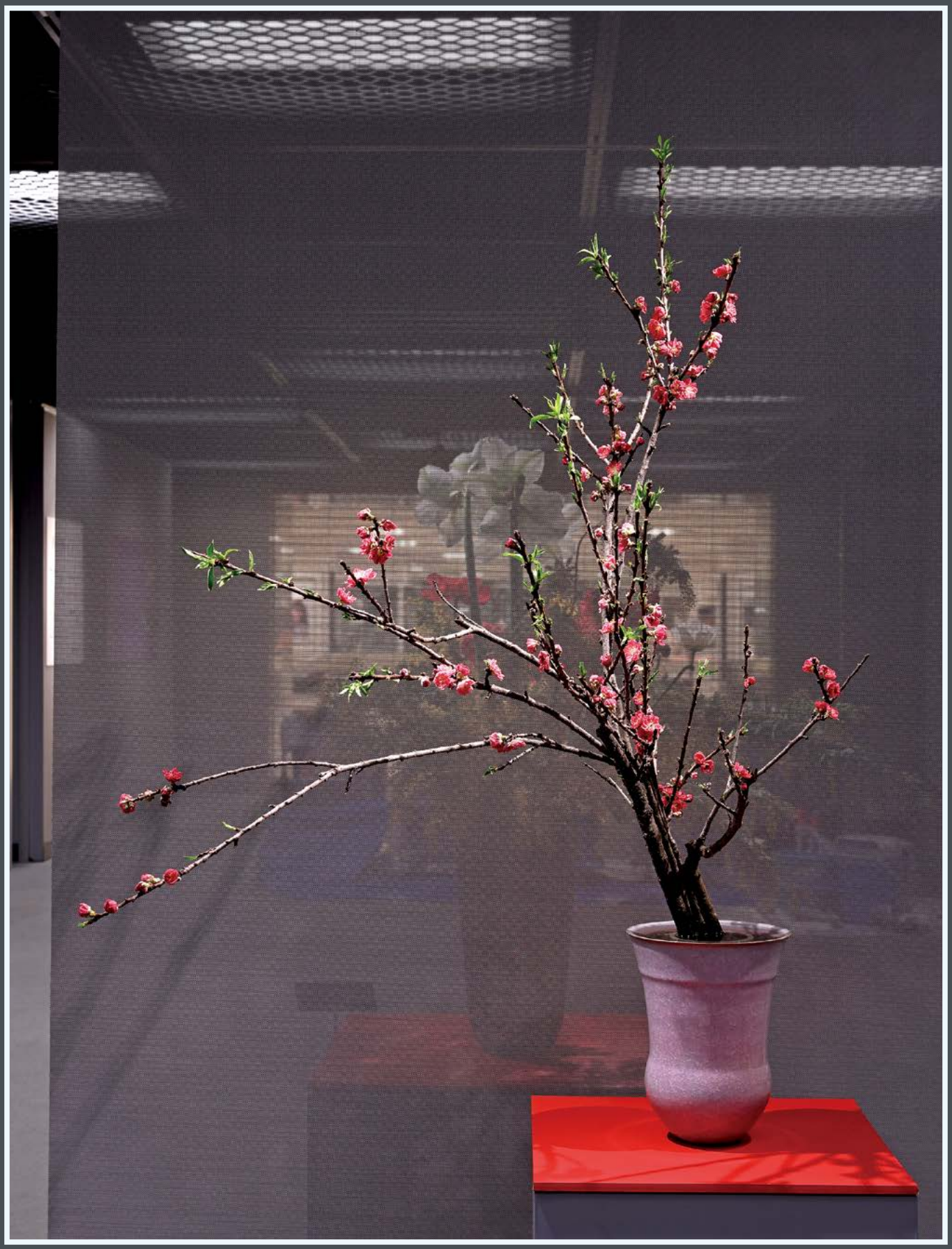
花材／薔薇（ばら）数種　梅苔木（こけぼく）　花器／陶花器　藤平正文

浅井慶知　（師範）　　比嘉慶志　（師範）

花材／紫陽花（あじさい）　辛夷（こぶし）　フリージア　　花器／陶水盤　秋野等

中野慶里　（師範）

花材／ヒアシンス４種　リューココリーネ　ミリオクラダス　　花器／梟（ふくろう）陶花器



葉柳慶智　（師範）　生花

花材／桃　　花器／瓷器花瓶　木村展之

小倉慶麗　（師範）

花材／土佐水木（とさみずき）　貝母（ばいも）　乙女椿（おとめつばき）　鳴子百合（なるこゆり）　　花器／朱塗盃「冨春盃」

金子慶和　（師範）

花材／ネオレゲリア　カーネーション　スプレンゲリー
花器／ガラス花器　　ヨーラン・ヴァルフ（スウェーデン）

石黒慶知　（師範）

花材／丸柘植（まるつげ）　スイートピー　ビーズ・ステンレス桜

花器／ガラス花器　ヨーラン・ヴァルフ（スウェーデン）

久保慶彩　（師範）

花材／オクロレウカ　ダリア「黒蝶（こくちょう）」　ホワイトアリウム　　花器／舟形陶花器（アメリカ）

権慶英　（師範）

花材／ラナンキュラス４種　ビバーナム・スノーボール　ミリオクラダス
花器／陶コンポート　柳原睦夫

木戸慶由　（師範）　生花

花材／シンピジウム３種　　花器／金属細工陶大皿（モロッコ）

外川慶美　（師範）

花材／雪柳（ゆきやなぎ）　ダイアモンドリリー　ポトス・ライム

花器／ガラス鉢　ドン・ゴンザレス（アメリカ）

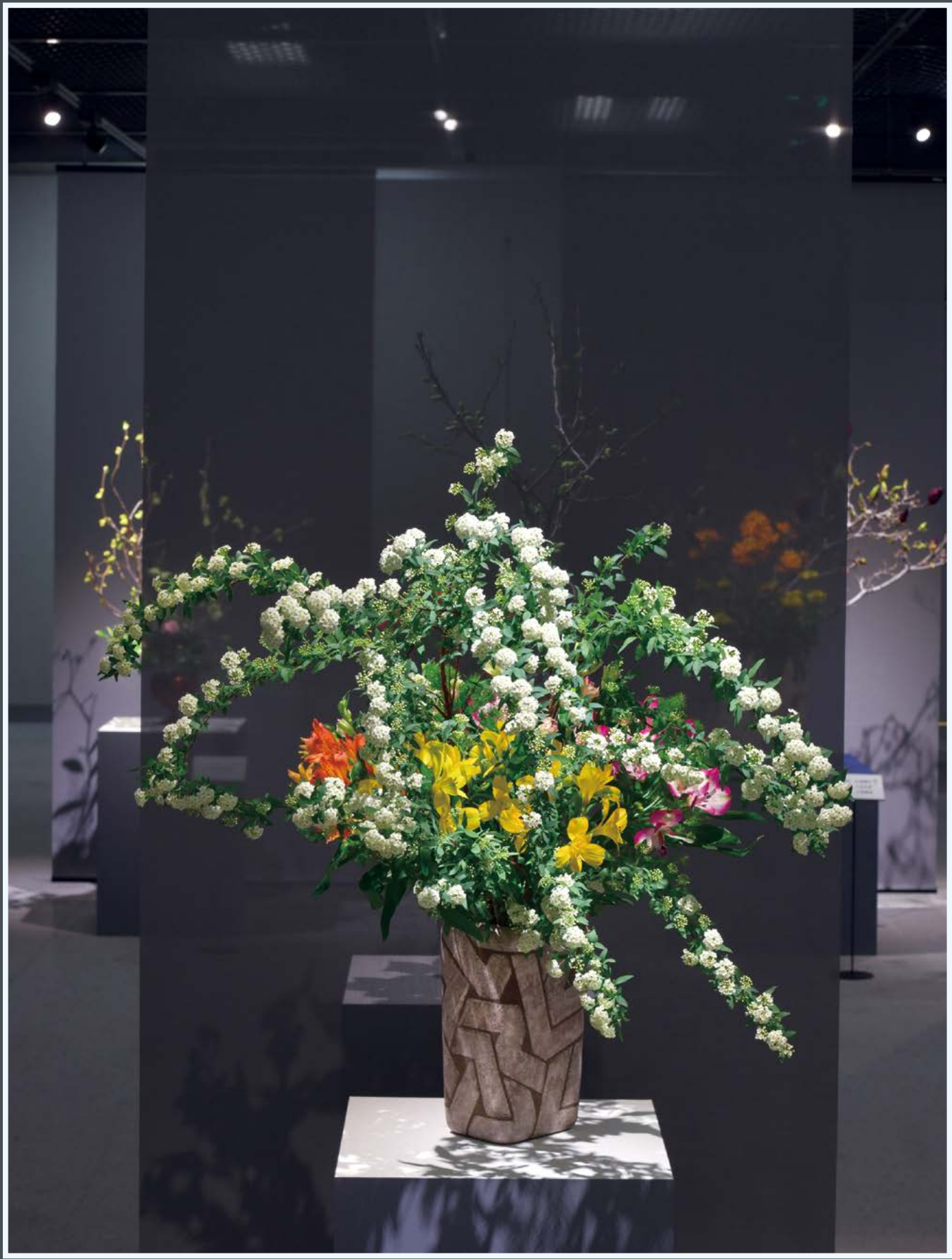
石野慶裕　（師範）　　上妻慶雅　（師範）

花材／唐桃（からもも）　かがり弁菊２種　　花器／陶花器　竹内眞三郎

石原慶真　（師範）

花材／クリビア（君子蘭）　ヘスペランサ・アルバ　チューリップ２種　薇（ぜんまい）

原種グラジオラス　　花器／結晶釉鉢　前田保則



岡田慶延　（師範）

花材／小手毬（こでまり）　アルストロメリア数種　　花器／陶花器　栗木達介

國府谷慶知（師範）

花材／白梅　岩根絞椿（いわねしぼり）　紫蘭（しらん）

花器／陶花瓶　幾左田昌宏

酒井慶康　（師範）

花材／パフィオペディルム　梅苔木（こけぼく）　スイートピー　猿尾枷（さるおがせ）　　花器／陶コンポート　宇野仁松

上野慶理　（師範）

花材／ウッドローズ　薔薇（ばら）　オンシジウム・オブリザタム　　花器／陶花器（アメリカ）

空華慶千　（師範）

花材／喇叭水仙（らっぱすいせん）　バンダ２種　手毬草（てまりそう）　　花器／染付鉢

織田慶純　（師範）　生花

花材／椿　花器／銅花瓶

田邊慶花（師範）

花材／木瓜（ぼけ）　薔薇（ばら）　照葉椿（てりはつばき）

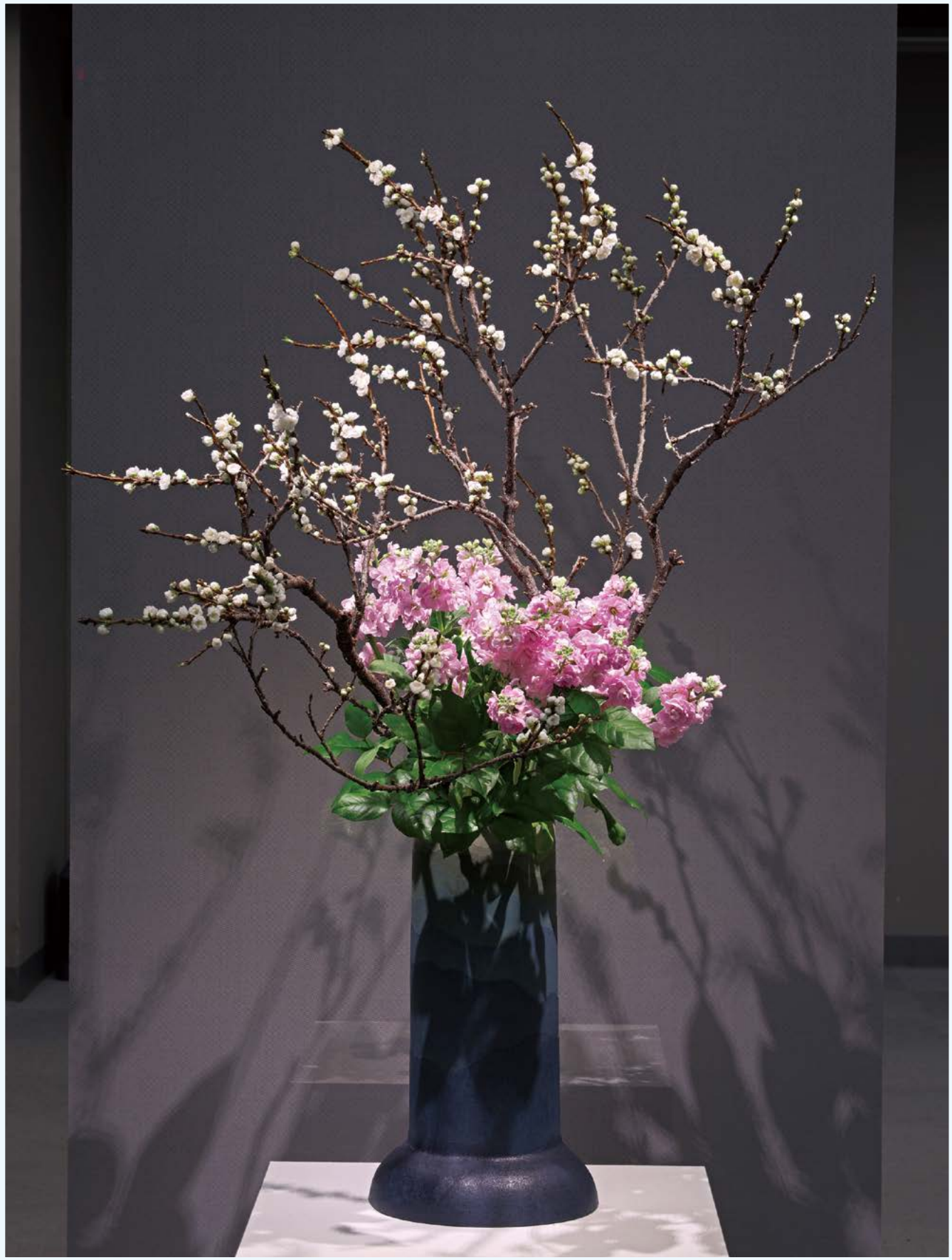
花器／陶花器　佐藤光夫

小田部慶綾　（師範）

花材／連翹（れんぎょう）　椿　　花器／陶花器　清水保孝

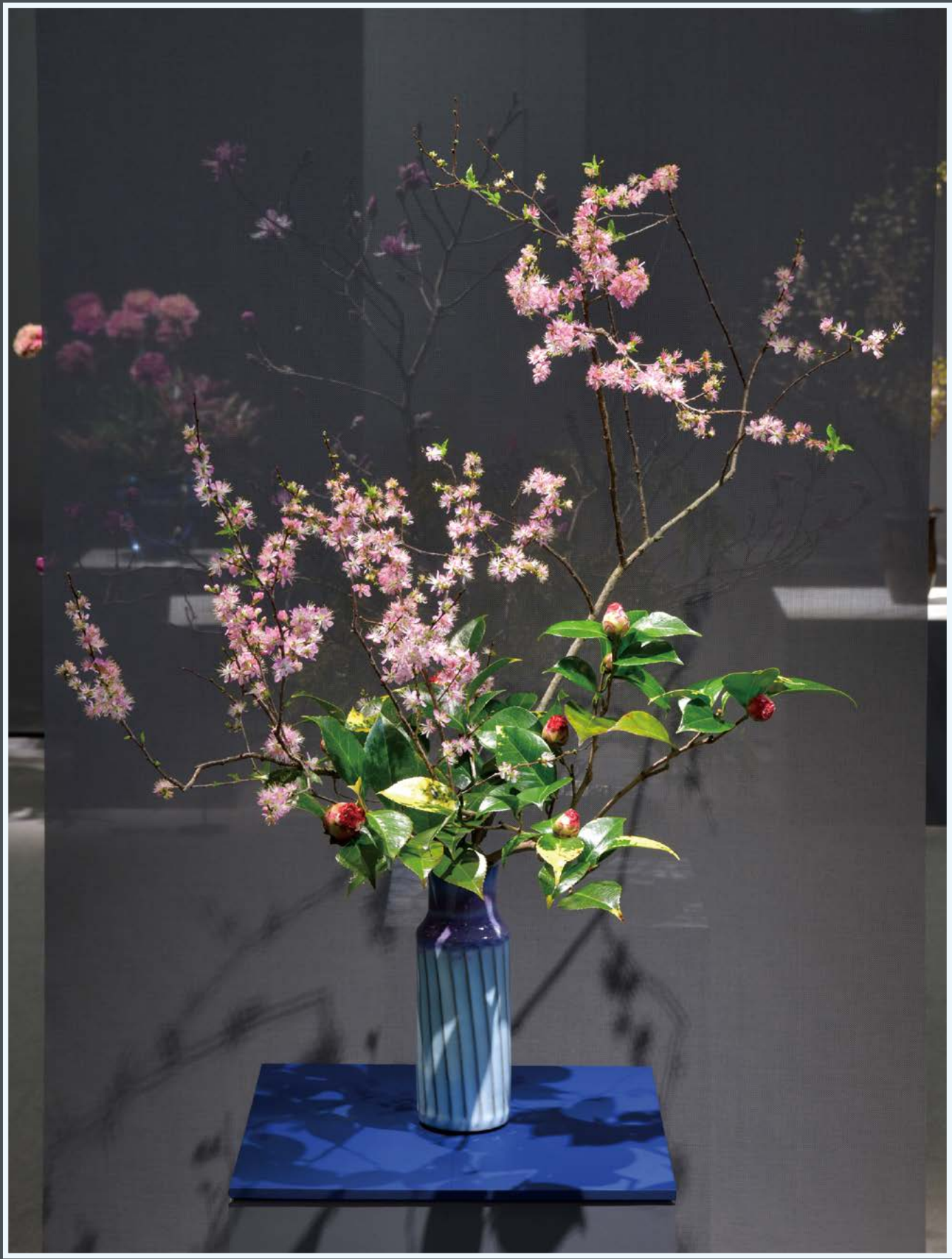
竹内慶由　（師範）

花材／猫柳（ねこやなぎ）　アネモネ数種　ミリオクラダス　　花器／陶花器　宮本博



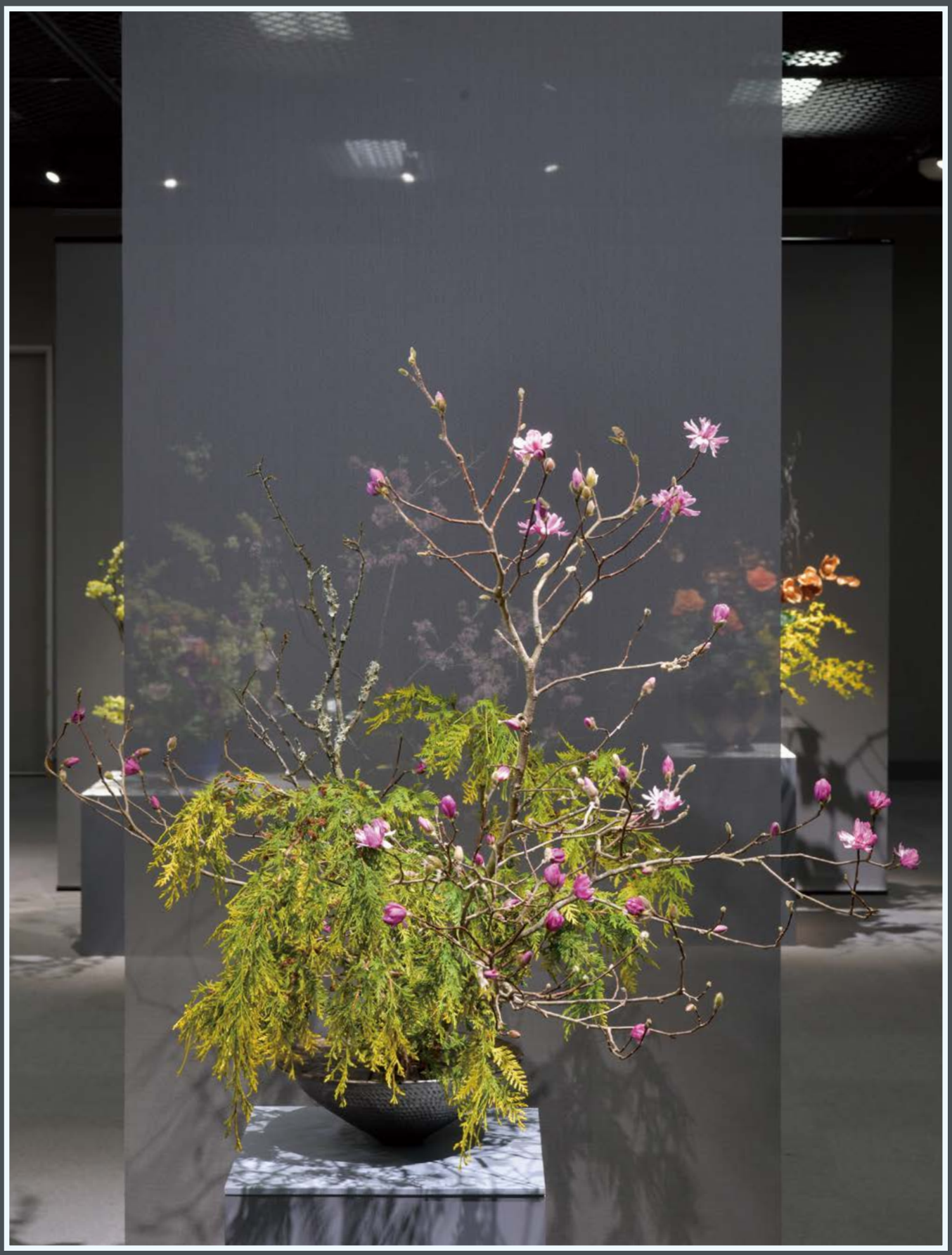
奥田彩波　（準教授）

花材／唐桃（からもも）　スプレー・ストック　レモンリーフ　　花器／彩泥陶花器　宮下善爾



岡田清峰　（会頭）

花材／庭梅（にわうめ）　椿　　花器／陶花瓶　宮下善爾



大内竹翠　（中伝）

花材／幣辛夷（しでこぶし）　垂柳檜葉（すいりゅうひば）　梅苔木（こけぼく）　　花器／陶水盤　木村年克

小島溪月　（初伝）

花材／海棠（かいどう）　柘植（つげ）　　花器／漆塗花器

クリス星樹　（初伝）

花材／アンスリウムの葉３種（ペダトラディアツム　ジャングルブッシュ
フーケリー）　檜扇水仙（ひおうぎすいせん）　　花器／ガラス花器　岩田久利

山田光楓　（入門）

花材／胡蝶侘助（こちょうわびすけ）　乙女百合（おとめゆり）　シクラメン　手毬草（てまりそう）　　花器／千鳥耳銅花瓶　足付銅盤

水島輝月　（入門）

花材／河津桜（かわづざくら）　照葉椿（てりはつばき）　　花器／陶花瓶　宇野三吾

竹林青波　（入門）

花材／三椏（みつまた）　こて檜葉（ひば）　　花器／目高染付器　近藤髙弘

早川久仁子　　平井さゆり　　鳴木今日子

花材／オンシジウム３種　シプリペジウム　オドントグロッサム

花器／黒釉長頸平成土器　ふくら壺　柳原睦夫

立花時勢粧３３３年　桑原専慶流いけばな展

花の芸術

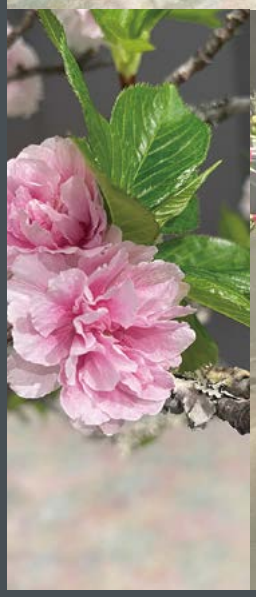
　コロナ禍での流展でしたが、風通しの良い設えでゆったりした展示にしたため、過去に経験したことがないような花展になりました。
　「花を観賞する」ではなく「花と時を過ごす」ような新鮮な感覚を持たれた方も多かったと思います。
　全てのいけばなを横や後ろからも見ることができ、向こうにいけられた花との重なりも心和む景色になっていました。
　会場入口では次期家元の力強い松一色砂の物が迎え花となり、会場内では私と副家元の桜の大作が 31 席のいけばなを見守ります。
　その 31 席は各期総替えとなって、それぞれの期の景色をつくっていました。
　私達の３作は６日間毎日水を入れ替えて展示。副家元の桜は次第に花色を濃くし、私の桜は会場で花が咲き、葉が居心地よさそうに広がっていきました。
　ご来場下さった皆様に厚く御礼申し上げます。
　開催が危ぶまれる中、素晴らしい花材が集まったことに心から感謝しています。

　新型コロナウィルス感染症対策の規制で来られ無かった皆様とも、ウェブ上で花展の様子を共有できました。全出品作の写真と花の名前、器の作者名、立花時勢粧のことを知って頂きたい思いで作った解説パネルを各期初日から公開しています。スマートフォンでも見ることが出来ますので是非ご覧ください。

　皆で花をいけることが何か世の中のためになることを願い、入場料全額を京都市に寄付させていただきました。他流の先生方にも入場券を買ってご覧いただくこととなりましたが、皆さん快くお越し下さり、また共感のお言葉も多く頂戴しました。いけばな文化が社会を育む方法として、このような花展もあって良いと思います。
　いけばなは花と協力することで生き生きとした美をつくりだす芸術なのだと、改めて実感しました。

桑原専慶流家元　桑原仙溪

※入場料および観覧料 1,131,888 円を 3 月 14 日に京都市へ寄付することができました。ご来場・ご観覧の皆様、花展に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。



一色物

花の芸術
ART OF FLOWER
3月2日(水)→7日(月)
桑原專慶流

kuwaharasenkei.com

kuwaharasenkei.net

「花の芸術」作品集撮影　作品写真／宇佐美宏　北岡清志　スナップ写真／伊藤望　島田哲史　髙田碧起

りっかいまようすがた

立花時勢粧

りっかじせいしょう

冨春軒桑原仙溪が１６８８年（貞享５年・元禄元年）に出版した木版刷り８冊の花伝書。植物の知識や扱い方、立花の技法と道具、花をいける心得などについて詳しく書かれていて、四季それぞれに植物本来の個性を生かした立花絵図が１１８作紹介されています。

「立花時勢粧」の解説
文：桑原仙溪

立花時勢粧（りっかじせいしょう）

「立華時勢粧」は貞享5年（元禄元年・1688年）に世に出た冨春軒仙溪による8冊の花伝書で、その内容は次のようになっている。

巻一「立花時勢粧 上」（33図）

立花時勢粧序

真行草の図

真の花形（一図）

行の花形（一図）

草の花形（一図）

直心立の内真の花形（一図）

直心立の内行の花形（一図）

直心立の内草の花形（一図）

除心真行草の事

除心立の内真の花形（一図）

除心の内行の花形　請上り立（一図）

同　水際除　請上り立（一図）

同　流枝持立（二図）

同　内副立（二図）

同　請流枝立（二図

同　中流枝立（二図）

同　左流枝（二図）

除真の内草の花形（十一図）

砂物真行草の事

砂の物の内真の花形（一図）

同　行の花形（一図）

同　草の花形（一図）

巻二「立花時勢粧 中」（45図）

雑体の図（四十五図）

巻三「立花時勢粧 下」（40図）

秘曲の図

真の対の花（二図）

行の対の花（二図）

草の対の花（二図）

合真（一図）

二つ真（一図）

おもと前置（一図）

小しだ前置（一図）

松の前置（一図）

竹の胴（一図）

南天の胴（一図）

藤の心（一図）

見越竹（一図）

牡丹の心（一図）

草花（一図）

松竹梅（一図）

杜若一色（三図）

荷葉（蓮）一色（三図）

菊の一色（三図）

水仙一色（三図）

松の一色（三図）

紅葉一色（三図）

櫻の一色（三図）

草花砂の物草（一図）

巻四「立花秘伝抄 一」

常磐木（ときわぎ）の部

木　枝　気條（すわい）　株　蘖（ひこばえ）　葉

花　蔓　松　若松　笠松

緑松　引松　松笠　禿（かむろ）松

かこい松　根じめ松

檜（ひのき）　柏　秋柏　枇杷（びわ）　栢樹（いぶき）

栂（とが）　榊（さかき）　かなめ　わくら

しらかし　かすおしみ　黄楊（つげ）

棕櫚（しゅろ）　杉　うすの木　夏ばせ

ふしくろ　栗の若ばえ

檜の葉　まゆみ　猿すべり

柞（なら）　晒木（しゃれ）　苔　柳　河楊（かわやなぎ）

紅葉（もみじ）

巻五「立花秘伝抄 二」

花の部

櫻　梅　桃　海棠（かいどう）　梨の花

辛夷（こぶし）木　杏（あんず）の花　百日紅（さるすべり）

蘇枋（すおうの）花　木蓮（もくれん）花　椿　山茶（さざんか）花

石楠（しゃくなげ）花　長春　躑躅（つつじ）

姥（うば）つつじ　蓮花つつじ

餅つつじ　五月（さつき）つつじ

かうぼけ　槙櫨（かりん）　馬酔木（あせび）花

紫陽花（あじさい）　くちなし　桐の花

実の部

沢水木　水木　梅もどき
七かまど　たらよう
仙蓼　みむらさき　つる水木
深山樒　たちばな　燈籠草
えびついばら　南天　藜蘆

通用物の部

竹　仙人杖　鬼鍼　鞭竹
唐笹　くまざさ　笹
牡丹　藤の花　南天
小しだ　萩　山吹　庭桜
粉団花　小手まり　米柳
小米花　黄梅　連翹　種紫
つる水木　えびついばら
仙蓼　下野　きじの尾　荵
矢筈　磐梨　がんそく
白丁花　岩檜葉　ひとつ葉
荔枝　薔薇

巻六「立花秘伝抄 三」

草の部

金錢花　蕗花　著莪　高麗菊
鴨脚花　あやめ　美人草
芥子花　うつぼ草　春菊
銀宝珠　杜若　きすげ
姫萱草　石竹　薊　花菖蒲
芍薬　早百合草　姫百合草
洗百合草　あたご百合草
さかりゆり　為朝百合草
鹿子百合草　葦　蒲　つくも
蓮　河骨　紫苑　萱草　葵
桔梗　女郎花　雁緋
松本仙翁花　仙翁花　檜扇
薄　唐黍　鶏頭花　旋覆花
黄精　蒲公英　紅花
だんどく花　菊　寒菊
われもこう　かるかや　粟
駒つなぎ　沢ききょう
犬子草　浜木綿　蘭
藤ばかま　鼠尾草　龍膽
よろいとおし　唐車前　あわ雪
花づる　七重草　荵草
きんき草　矢筈　秋海棠
いさざ　野かいどう　けまん
茜草　莎草　桜草　虎尾
つち草　金宝花　にし木々
うつほ草　仙茨菰　ばれん
仏生花　岩芭蕉　水仙花

巻七「立花秘伝抄 四」

七つ枝の事（図）
（立花道具の図）
対の花真行草の事
松竹梅三瓶の事
立花陰陽の事
十三ケ條法度の事（図）
古代十ケ條法度の事
立花八戒
立花十徳
立花十体
祝言に嫌うべき事
立花細工の事（図）
草木水あくる事
花瓶の事（図）
込の事（図）
床前の事
下指の事
立花見様の事
立花習いようの事

巻八「立花秘伝抄 五」

九品の花形立様の事
極真立
除心真の花形立様の事
除心行の花形立様の事
除心草の花形立様の事
草の花形立様の事
砂の物真行草
地取の事（図）
立花名目　訓解
心の事
正心の事
副の事
請の事
見越の事
流枝の事
前置の事
胴作りの事
控枝の事
立花腰の事
水きわの事
かこいの事
谷洞の事
つや　あしらいの事
意気の事　うつりの事
張弛の事
立花色の事
貫枝の事

槖駝（たくだ）曰（のたまわく）

立花を立てた人達

立花時勢粧の絵図には50人の名前が載る（初版では42人）。人物名と作品数は次のようになっている。

《登場順（　）内は初版での数》

桑原正栄　4（3）
冨春軒仙溪　17（35）
桑原次郎兵衛　14（16）
中野五郎左衛門　2
中野小左衛門　2
中野宗左衛門　2
西村松庵　7（6）
谷久兵衛　3（2）
寺田清左衛門　4
寺田八郎兵衛　4
筑摩九郎右衛門　2
林昌　1
桑原半兵衛　2
菱屋六兵衛　2
松本氏　1
竹葉軒治兵衛　2
相田湛流　1
坂田任性　1
中塚半之丞　1
専定寺　2（1）
東湖軒　1（0）
高橋吉兵衛　2
濱崎九左衛門　1
三好理兵衛　1
知休　1
中川常意　2
桔梗屋平右衛門　1
大坂屋五郎左衛門　1
山本四郎左衛門　1
恭圓　1
大橋源七　1
西川和泉　1
松尾清左衛門　1
澤重左衛門　1
小川源右衛門　1
十二屋善兵衛　1
圓音　1
服部三郎右門　1
冨田屋甚左衛門　1
丸屋勘助　1
弁秀　1
寺内長三郎　1
寺田清兵衛　1
櫂善子　1（0）
一歩子　1（0）
僧光清　1（0）
寸松軒　1（0）
義慣　1（0）
桑原治郎兵衛　1（0）
中野氏　1（0）

立花時勢粧（りっかいまようすがた）　上　中　下

春夏秋冬

巻1から巻3の3冊「立花時勢粧　上中下」には118作の立花図と花形の説明が載る。

絵図の花材をたよりに季節毎に分けてみると次のようになる。（およその数）

春　25
夏　24
秋　30
冬　39

季節を通して立花が立てられていたことが想像できる。

立花秘傳抄 一～五

巻4から巻8の5冊「立花秘傳抄 一～五」には草木の出生、立花の技法と道具、作意や技巧について詳しく書かれている。

立花秘傳抄の中で個人的に一番好きなところを次に紹介する。

立花色の事

師に問う。

立花 色 と云うはいかなる所を云うや。

師の云わく、これ花道の奥義、出生玄妙体を瓶にうつすを仮に名付けて色と云う。

その玄妙体とはいかなる所を云うや。

師の云わく、柳は緑、花は紅。

問うて云わく、いかがして指し得べきや。

師語りて云わく、草木我が心にまかする時は工に貪著するゆえ、必ず出生の景気得がたし。

また我が心草木にまかせて念慮なく、植に生ずるは植に、横に生ずるは横に遣う時は、草木自然の体、顕なるべし。

槖駝曰、古文

以能順木之天以致其性焉爾

以て能く木の天に順

以て其の性を致すのみ

この語花道の奥義によく相叶えり。

誠に微細の教導、向上の一路なり。

この境をよくよく工夫して修練止まざるときは、覚えずして色あるべし。

種樹郭槖駝傳

柳宗元（773～819）

中国唐代の文人、柳宗元が書いた「槖駝」の話を冨春軒は知っていて、「立花色の事」の中に引用している。その「種樹郭槖駝傳」とは次のような話である。

槖駝は腕のいい植木屋で、彼が植えた木はよく成長し、果樹は多くの実を実らせる。

あるとき役人が評判を聞きつけ、槖駝にそのコツを尋ねるのだが、槖駝は答えて言う。

「私にそのような力があるのではない。木の天然自然に従ってその生まれ持った生きる働きを導くことができるだけだ。

植える時は子を育てる時のように大事にし、手放すときは棄てるようにすればその木の天性は損なわれず完全で、生きる働きが適切に行われるのである。」

冨春軒仙溪はこの「槖駝」の考え方に共感し、花を挿す極意として花伝書に加えておいてくれた。

冨春軒から渡された「槖駝の教え」が、多くの人に届くことを願う。

種樹郭槖駝傳のことを「花の芸術」サイトで紹介しています。

春

春の絵図には躑躅、藤、桃、山吹、牡丹などとともに、杜若（春〜秋）、芍薬（春〜夏）、小菊（四季）、黄梅（晩冬〜春）などは季節をまたいで使われている。桜は他の花を交ぜず一色物で登場する。一種類の花材で立てる立花は一色物と呼ばれる。

藤の心（第92図）

一歩子（冨春軒：初版）
藤　松　樫　躑躅　柘植
小菊　鳶尾　若葉

S字に上へ伸びる藤蔓を真にした立花。「秘曲の図」の一つで、元は冨春軒の作である。若々しい蔓の姿に藤の命を感じる。2色の躑躅で明るく彩りを増している。

夏

夏の立花には百合が多く登場する。蒲、芦、太藺、萱草、仙翁、檜扇、葵、芍薬などが季節を伝えてくれている。水生植物の蓮も特別な花材で一色で立てている。

草花砂の物 草（第118図）

中野氏（冨春軒仙溪：初版）

檜扇　芦　杜若　仙翁花　百合　擬宝珠　小菊　桔梗

この絵図の主役は草花で、植物の溌剌とした生命力を表現しようとした冨春軒仙溪の心が読みとれる一作である。

秋

秋はなんといっても菊が多い。松、梅擬、南天、鶏頭、薄、杜若（四季咲き種）などと合わせて菊が彩りを添えている。一方、紅葉した楓は他の色のあるものを交ぜずに一色で立てている。楓の紅葉を特に大切に思う心の表れである。

除真の内
草の花形（第30図）

冨春軒
梅擬　柏　菊　小菊　椿
熊笹　伊吹　若葉　樫

自由に伸びる梅擬に菊が呼応する。水際に椿を加えた晩秋の一作。この「除真の内草の花形」こそ「草木自然の形をそのままに、（中略）工夫をなし、心をくだきて、自得の妙手より指し出したる形」であって「立花の骨髄」であると冨春軒は言っている。

冬

冬には松、竹、梅、水仙、枝垂れ柳、南天、椿、沢水木、千両、などが使われている。中でも水仙は多く使われていて、水仙一色の絵を見ると今にも踊り出しそうな躍動感あふれる姿をしている。これは葉に針金を通して形作ったのではなく、実際にそのような水仙を見つけて立てたものである。水仙郷を訪れると曲がりくねった葉を見かける。冨春軒はそんな自然の造形に水仙らしさを見いだしていた。

松の前置（まえおき）（第89図）

冨春軒

檜　晒木　沢水木　水仙

松　苔　枇杷（びわ）　樫（かし）

水際（みずぎわ）の松と中央の晒木（しゃれぼく）がつくる深山幽谷（しんざんゆうこく）の景色。水仙は仙人のようである。檜（ひのき）の曲線と沢水木の直線が絶妙。苔生（む）した小枝が効いている。

直と曲の美

立花時勢粧の絵図には独特の美しさがある。特に冨春軒が立てた立花や砂の物の絵は見ていて見飽きることがない。絵は平面だが表現されているのは生き生きとした立体だ。真っ直ぐ伸びる枝。ねじ曲がった枝。それらが前後左右に伸び、重なることで生まれる美は、他に真似のできない独自の境地である。使われている枝はおそらく何日も山に分け入って探し求めたものだろう。風雪に耐えて曲がりくねった植物の神々しさを、立花の様式で美しく昇華させたかったのだろう。

また、絵図は絵としても優れている。おそらく冨春軒自身が思いを込めて描いたものだろう。木版刷りに手彩色したものの中には、冨春軒みずから、もしくは絵師に指示をして色をつけさせたものもあるに違いない。

松除真立花（第21図）

除心の内草の花形
冨春軒
松　梅　晒木　苔木　水仙
椿　柘植　伊吹
枇杷　若葉

自然の息吹を見つめる眼差し

「立花時勢粧 下（巻3） 秘曲の図」に納められた「草花立（くさばなだて）」の立花図で、今回『夏』のパネルで紹介した「草花砂の物 草」の絵図と対をなす草花主体の立花である。葉を広げ茎を伸ばし花を咲かせる草花たち。自然の息吹を見つめる眼差しを感じる。

花をいけるのは、和歌や俳句や詩に自然の輝きを詠みこむのに似ている。肝心なのは輝きを感じる心だ。冨春軒のいける花はどの花もキラキラ輝いている。

「いけばなは花と協力しながら生き生きとした美をつくりだす芸術」なのだ。

草花立（くさばなだて）（第95図）

僧光清　（冨春軒：初版）
芦　薄（すすき）　百合　芍薬（しゃくやく）　杜若（かきつばた）
小菊　熊笹
紫苑（しおん）　著莪（しゃが）

一色物（いっしきもの）

立花時勢粧には「秘曲の図」の中に7種の一色立花（杜若（かきつばた）・蓮・菊・水仙・松・紅葉・桜）がそれぞれ3作ずつ描かれていて、そのほとんどを富春軒（仙溪）自ら立てている。一色物は一種類の植物による景観を表現するもので、役枝のほとんどを一種で立てる。

紅葉一色 （第112図）　（富春軒：初版）

楓　晒木

松一色 砂の物 （第111図）　（富春軒：初版）

松　晒木　苔木

蓮一色（第 101 図）

冨春軒　　芦　蓮　小菊

杜若一色（第 98 図）

桑原次郎兵衛　　杜若　河骨　著莪

水仙一色（第 106 図）

冨春軒　　水仙　金盞花　著莪

菊一色（第 104 図）

冨春軒　　菊　小菊

桜一色

桜一色 立花（第115図）　（冨春軒：初版）　桜　苔木　万年青　小羊歯

桜

祝言。一色。

桜は和朝第一の花にして、名をいわずして花というは桜なり。唐には牡丹を花という。蜀の国にては海棠を花という。本朝、桜を愛するの始めは、人皇四十五代、聖武天皇桜を求め給う時、大和国春日後三笠山に八重桜あり。是を叡覧ありて、則四言詩作り光明皇后へ送り給う。詩に曰く、昌春季　山山美花　不見玉女　多恋歌　この詩、一句三字なり。句ごとに上の一字を二度読むなり。或人詩の心を歌に読む、日にそえてとり社まされ山桜いもに見せばや夜こそねられね。天皇還御の後、后この桜を見度よし仰せらるるゆえ、帝則奈良へ移し植えられ侍り、その後今の都へもこの花うつし来せしなり。百人一首伊勢が歌に、いにしえの奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬる哉、これよりして後、上一人より、下万民にいたるまで、詩を詠じ、うたを読む。連俳共に研精　覃思は、皆この花を賞美したる物なり。況や花道においてをや。余木余草に立てまぜずして一瓶を成就す。これを真の一色と、皆桜ともいいて、大きに秘伝とする所なり。たとえ又余木余草を立てまじゆるというも、花の咲くことなき草木をあしらいばかりに用いるなり。皆これ桜を、第一の花と尊美したる心なり。

本草綱目に図する所の桜、日本の桜にあらず。唐の詩文を勘ふるに、王荊公が山櫻の詩一首のみ有り。

山桜抱石映松枝
比並余花発最遅
頼有春風嫌寂莫
吹香渡水報人知

和名、吉野草。夢見草。尋源草。かさし草。人丸草。雲見草。曙草。あだな草。手向草。

蔵玉集

尋ね行く吉野の山の尋源草花より上にかかるしらくも
植え置きて見る人やある夢見草明日をもしらぬけふの命を

斎宮花尽異名

雲は猶立田の山の手向草ゆめの昔のあとのゆふくれ

桜の立てまぜて苦しからざる物、松、いぶき、檜、栂、黄楊、樫木、白樫、小しだ、わくら、くまざさ、かなめ、外これになぞらうべし。

桜真の一色の時、前置におもとを用いる事、常の事なり。ある人の曰く、皆桜という時は前置までに桜を用うべきに、何とておもとを用いて皆桜といい、又は一瓶に伝受の一色と、伝受の前置と、二つ有る事は相うばうに似たり。いづれを賞翫とすべきや。答えて曰く、口伝あり。

桜に晒木用いぬ事は、桜は高山の物なれど松檜にかわりて木の性かたからず。よわいも久しからざる物ゆえ、晒木とはならず。古人これをかんがみて法式を定めたり。

世上まれなる初桜なんどは一色ならずとも立ててくるしからず、といえる流儀ありとも、ゆめゆめ用いべからざる事なり。

「立花時勢粧」立花秘傳抄二・花の部より

桜一色 立花 （第 116 図）　（冨春軒：初版）

桜　苔木　伊吹　樫　柘植　小羊歯

桜一色 砂の物 （第 117 図）　（冨春軒：初版）

桜　苔木　伊吹　柘植　万年青
樫　羊歯

・右頁の聖武天皇（701 ～ 756）の詩の読み方
「春季日々に昌なり　美花を山々に出す　玉女を覓むるに不見　恋歌夕夕に多し」

立花時勢粧の器

「立花時勢粧」には118の絵図が収められているが、その器は96種類もある。出版された元禄元年頃には、華やかな世相と立花の流行とが相まって、立花瓶にも様々な形や新しい意匠をこらしたものが作られた。

自由奔放な自然の息吹とその調和を表現しようとした冨春軒仙溪。特に行や草の立花には、それに呼応するような変化に富んだ器を選んで使っている。

器の形だけを見ても様々な形態のものがあり、耳の形も変化に富んでいる。象、龍、獅子、唐子、蟷螂、魚、鳥、兎、蝶、瓢箪、藤の花、蓮の巻葉、竹などが意匠化されている。宝袋を模った器はめでたい席に立てるためのものだろうか。

花の芸術

立花時勢粧333年

桑原専慶流